

# 地域福祉ワークショップ

## 地域コミュニティのこれからと地域活動について

### 実施報告書



令和6年2月

中央区・中央区社会福祉協議会

#### 【目次】

地域福祉ワークショップの目的	2
グループワークの流れ	4
グループワークの結果	5
資料編(プログラム、写真、アンケート結果)	10



## 1 地域福祉ワークショップの目的

区では、令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健医療福祉計画2020」を策定、令和3年3月には中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会がより一層連携を強化して「地域共生社会」の構築を目指すこととしたところである。

「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」という基本理念にあるように、地域共生社会の実現のためには、行政による取り組みはもちろんのこと、区民が主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりが重要である。

地域福祉ワークショップは、参加者同士の自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合い、横のつながりを深めるとともに支えあいの地域づくりを推進することを目的としている。

## 2 主催

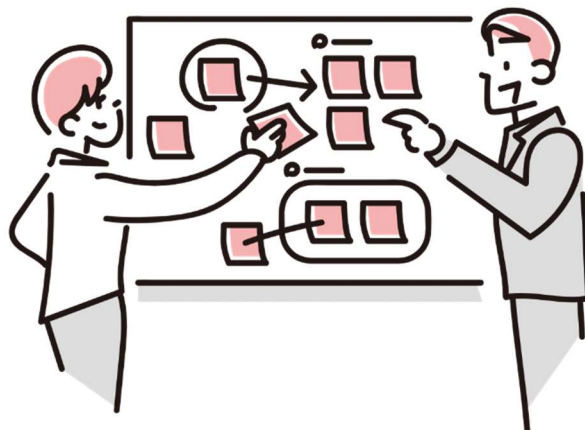
中央区・中央区社会福祉協議会

## 3 開催日

令和6年1月24日(水) 18:30～20:30

## 4 参加者数

27名(定員25名、申込者数33名)



## 5 当日のスケジュール

1. 開会・あいさつ (2分)	事務局あいさつ
2. オリエンテーション (3分)	●プログラム説明 ●地域福祉ワークショップの目的
3. 講演 (30分)	「地域コミュニティのこれからと地域活動について」 ●講師:駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏
4. 報告 (10分)	「区内の地域活動拠点について」 ●報告:中央区社会福祉協議会・事務局 職員
5. グループワーク (70分) ①説明(5分) ②話し合い(40分) ③発表(15分) ④総括(10分)	「地域活動のあり方と地域活動拠点の利活用」をテーマに、 グループで話し合いを行います。 ●ファシリテーター: 駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏 ●サポーター: 中央区社会福祉協議会・区職員 ①テーマに沿って話し合う。 ②グループで話し合った結果を発表する。 ③ファシリテーターからコメントをいただく。
6. おわりに (5分)	事務局あいさつ
7. 閉会	閉会

(120分)

## 6 報告「区内の地域活動拠点について」

区では、令和2年に策定した「中央区保健医療福祉計画2020」の基本施策2「気づきあい支えあいつながる地域づくり」における取組の一つとして、地域活動拠点の整備を進めている。地域活動拠点は、身近な地域で地域住民が集まり定期的な活動を行う場、参加者同士つながりを深める場として今日まで機能してしてきた。

現在区内には2か所の地域活動拠点(勝どきデイルーム、多世代交流スペースはまる一む)を設置しており、その活動状況を報告後、令和6年5月に開設予定の新たな地域活動拠点「築地交流スペース ツキチカ!」の概要について案内した。

## 7 グループワークの流れ

5つのグループに分かれ、サポーター役として中央区社会福祉協議会職員等が加わり、テーマに沿って意見交換・集約を行った。

- ① 自己紹介
- ② 「司会」と「発表」を決める
- ③ 講義内容を踏まえ意見交換のテーマを確認
- ④ 個人ワーク(付箋に意見や思いを書き出す)
- ⑤ 付箋をもとに意見交換を行い、要旨を模造紙にまとめる
- ⑥ グループで話し合った意見を発表
- ⑦ ファシリテーターからの総括コメント

(講義内容)

- ・地域活動の燃料(原動力)は「共感原理」である。
- ・地域のニーズ(困りごと/課題)を知り、そのニーズに共感し、自分たちに何ができるのか考えることが、新たな活動への一歩につながる

(意見交換のテーマ・ヒント)

地域活動・地域活動拠点のあり方について～思いを共有しよう～	
地域の特徴 気になっていること	・ 地域の特徴、好きなどころ ・ 地域の心配事、気になっていること
地域活動の魅力 気になっていること	・ 地域活動の魅力、参加した(したいと思った)きっかけ ・ 地域活動の心配事、気になっていること
地域活動拠点でやりたいこと	・ こういう活動があると良いのでは?活用のアイデア ・ どうすれば地域活動拠点を周知できるか
私ができること 必要なもの	・ アイデアを実現するために私(私たち)ができること ・ アイデアの実現に必要な仕組み(ヒト・モノ・カネ?)



## 8 グループワークの結果

### 1グループ

「行政だけに任せない！自分たちで地域活動拠点を作っていく」

#### ●地域の魅力

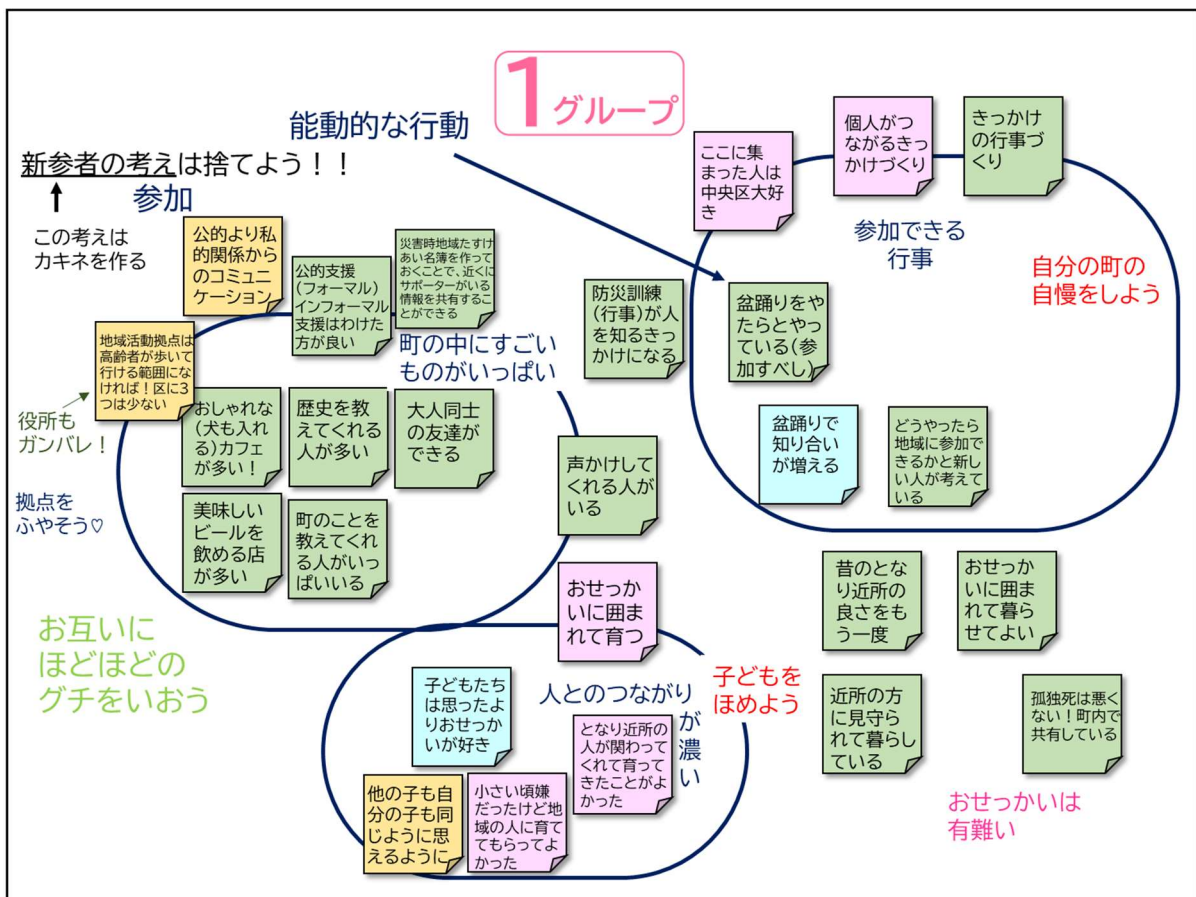
- おしゃれなビールの飲めるカフェ、様々な人が集まれる場所がある。地域の事を教えてくれる方も大勢いる。

#### ●地域と関わるきっかけ

- 参加できる行事が多い。地域の盆踊り、防災訓練等への参加を通してつながることができる。
- 様々な方とのつながりを通し、情報を共有することが大切である。
- 子どもたちに「おせっかい」を焼く。小さい時は嫌かもしれないが、大人になった時「地域の人に育ててもらってよかった」と思うようになる。人と人とのつながりは、大人になってからも生きていく。

#### ●地域活動拠点について

- 地域活動拠点は現在2か所しかない。もうすぐ3か所目ができるが、みんなが集えるような場所が地域にもっと増えると良い。
- 行政にも頑張ってもらいたいが、私たちもそうした場所が増えるように、自宅の庭先や玄関先などを活用して、そこが拠点となるような地域活動を続けたい。



## 2グループ

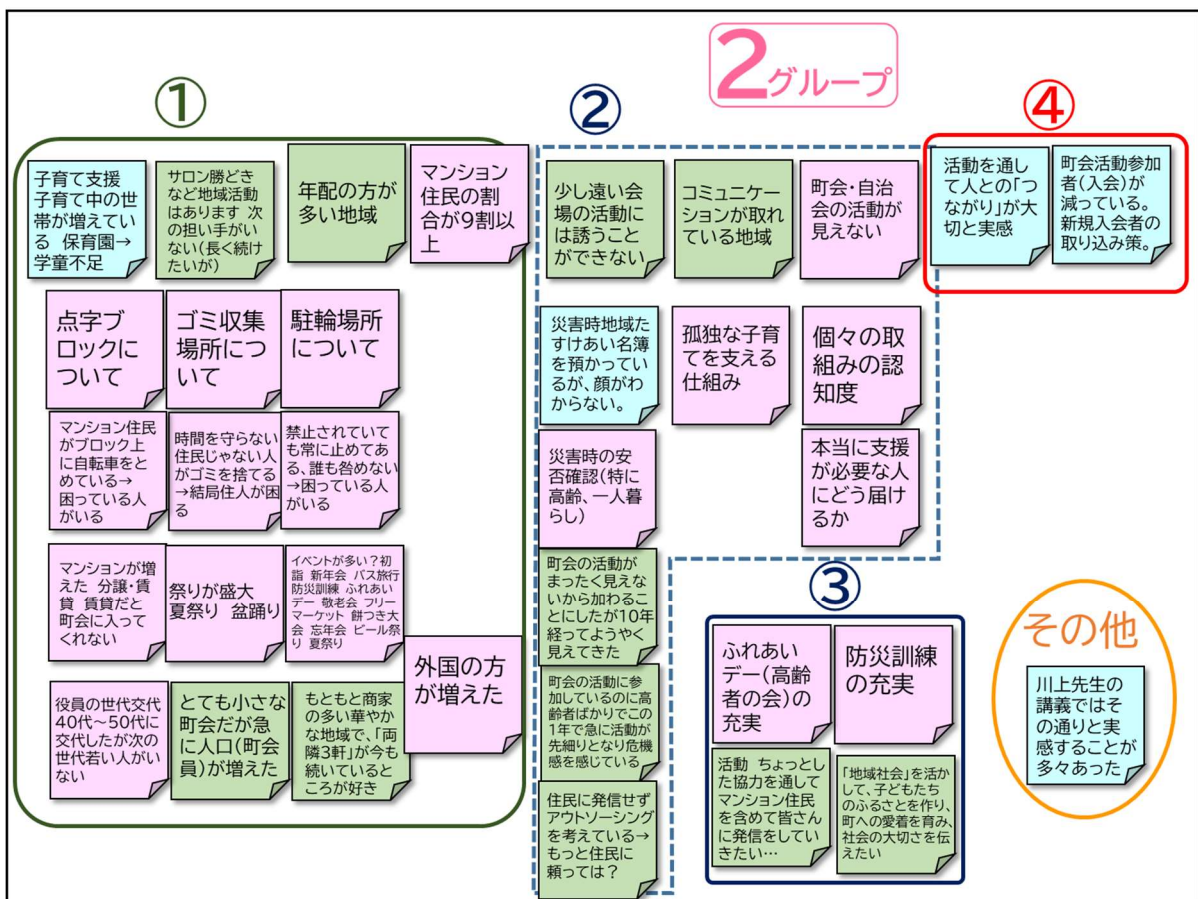
「地域活動を通し、子どもたちの“ふるさと”を作っていく」

### ●地域の特徴・気になること

- 人口が増え、子育て世帯やマンション住民、外国人が増加している。
- 町内会の高齢化・担い手不足の問題。
- 色々な取組が地域にはあるが認知度が低く、必要な人に情報を届けることができているのか？という疑問もある。情報が届いていないことで、子育て世帯や一人暮らし高齢者は孤立していないか。災害時に対応できるのか。

### ●地域でやってみたいこと

- 現在行っている活動を、更に地域に広めていきたい。
- 地域活動を通し、子どもたちの“ふるさと”を作ってあげたい。子どもたちが大きくなり、一度地域を離れたとしても、いつか大きくなってから地域に戻ってこれるような付き合いがある環境を整えたい。





### 3グループ

「情報発信のスタイルは様々であり、大切なのは目的を失わないこと」

#### ●地域の課題

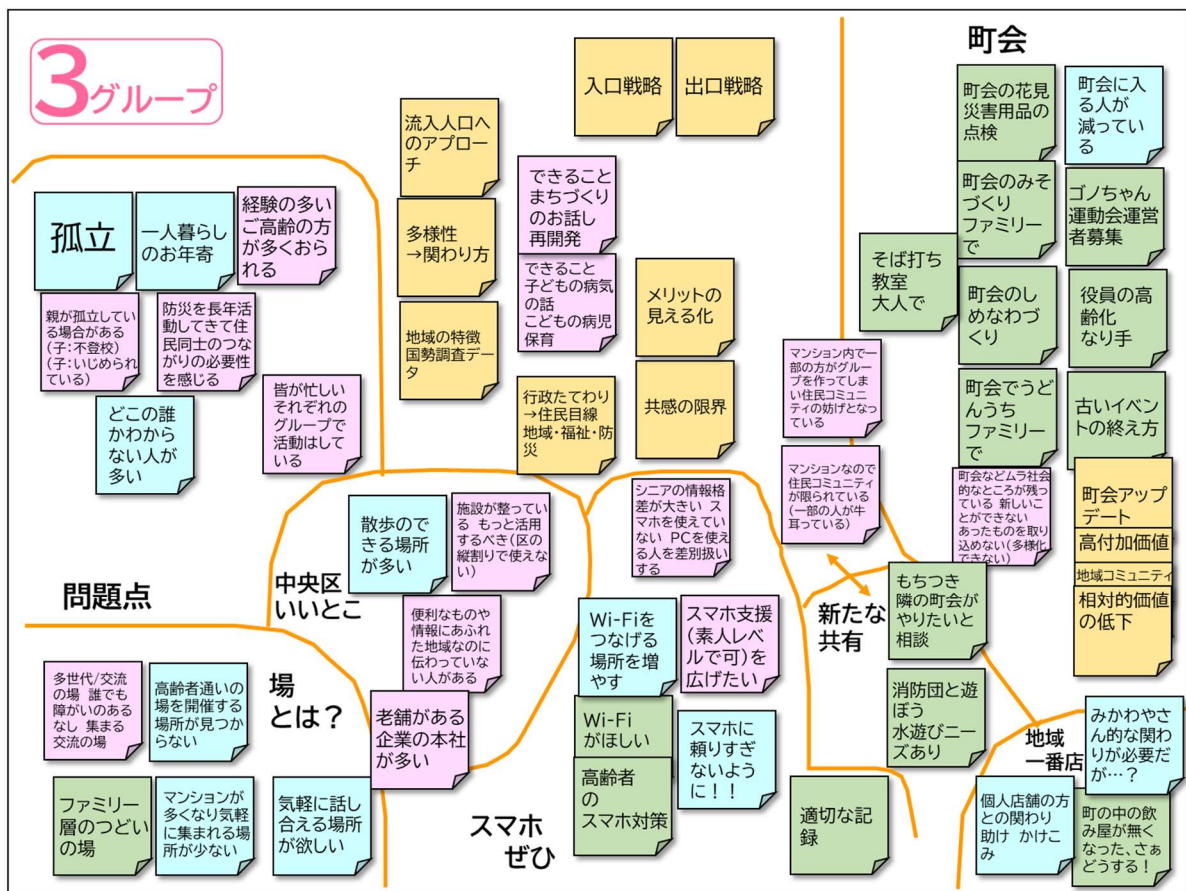
- 様々な意見が出ていたが、ほとんどが孤立に関するものだった。
- 一人暮らし高齢者だけでなく、マンションの中でも隣の住民がわからない状況で、災害発生時にはどのように対応すれば良いのか。

#### ●地域の魅力

- 高齢者通いの場など、定期的に集まれる場づくりが大切である。
- 中央区はコンテンツが豊富で魅力で溢れているまちである。

#### ●今後の地域づくりに向けて

- 様々なコンテンツが存在しているが、それらを使いこなしている人は少ないのではないかと。スマートフォンも、ただ持っているだけの人がいる一方、使いこなしている人もいて、そのスキルに格差が生じている。
- スマートフォンに依存するのも良くなく、情報を伝えるための一つのツールとして、その目的を見失わないようにしないといけない。アナログからデジタルまで様々な手段を活用し、情報が広く伝わるのが理想である。
- 地域の小さな商店が、地域の集いの場になると良い。





## 4グループ

「多様な顔を持つ地域だからこそ生じる課題に対応していく！」

### ●主なトピックス

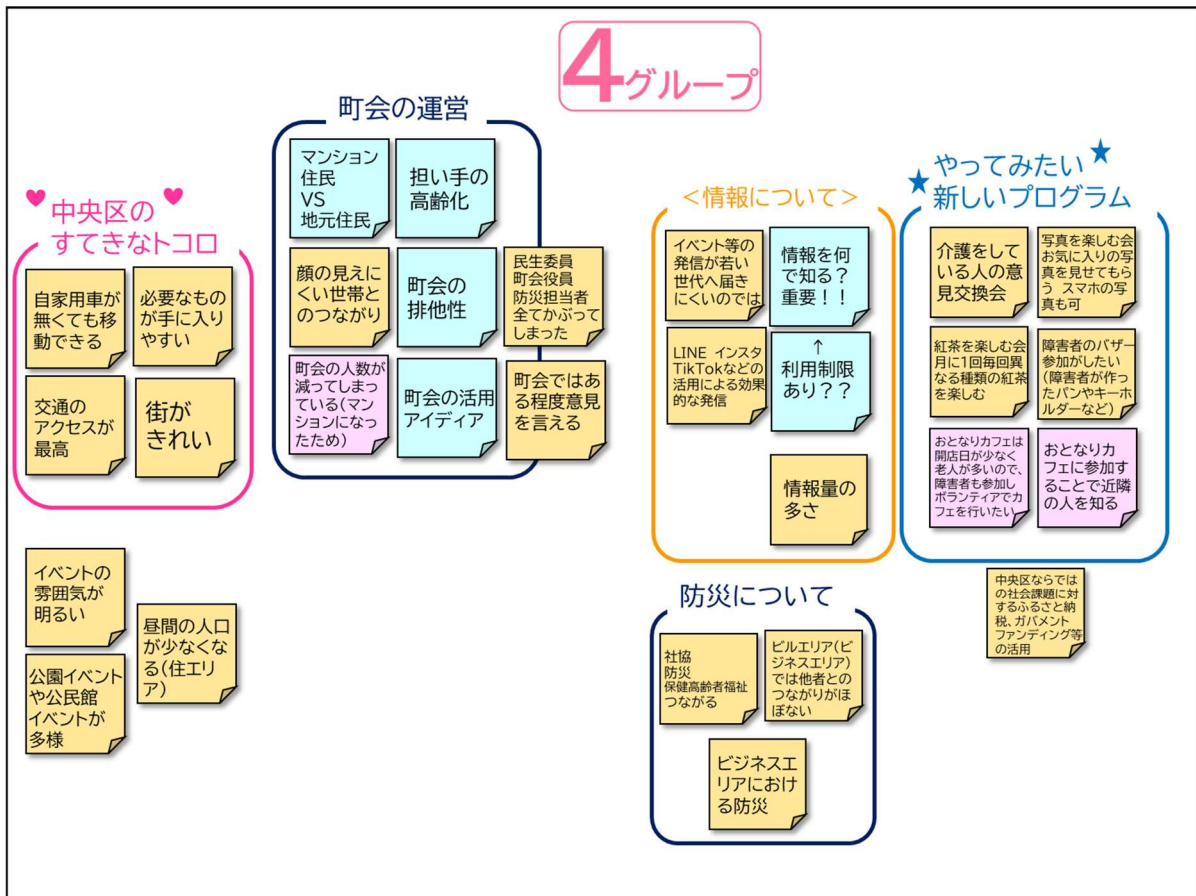
- 中央区の素敵なところ、町会・自治会の運営について、情報収集について、地域でやってみたいこと、防災に関する5つのトピックスについて話し合った。
- 盛り上がったのは、町会・自治会の運営と情報収集についてだった。

### ●町会・自治会の運営について

- マンション住民と一軒家の住民で、考え方が異なる。
- 自治会に加入しているマンションもあれば、未加入のマンションもある。未加入のマンションには、地域の情報がなかなか入らない。情報はあるはずなのになぜ入らないのかと思うが、自治会に加入しているマンション住民側からしたら、自治会に入れば情報は入るのになぜ入らないのかと思ってしまう。
- 相互に考え方が異なるが、多様性ゆえに生じる課題なのだと思う。これをいかに解消するかが重要だが、そこまでの議論には至らなかった。

### ●情報発信について

- 情報は地域にあふれているが、世代により情報の受け取り方は異なる。どこが情報発信を担い、誰をターゲットにするのかを絞らないと、必要な情報は届けられない。情報発信の仕組みづくりを整備する必要がある。



## 5グループ

「地域活動の魅力は、コミュニティを動かすこと」

### ●地域の魅力

- ・ 伝統、祭り、公園がたくさんある。

### ●地域で気になること

- ・ マンションが増えた。日中人がいないエリアもある。
- ・ 一人暮らしの方が増えた。
- ・ 地域活動を行う際、誰が責任を持つのか。

### ●地域活動に参加したきっかけ

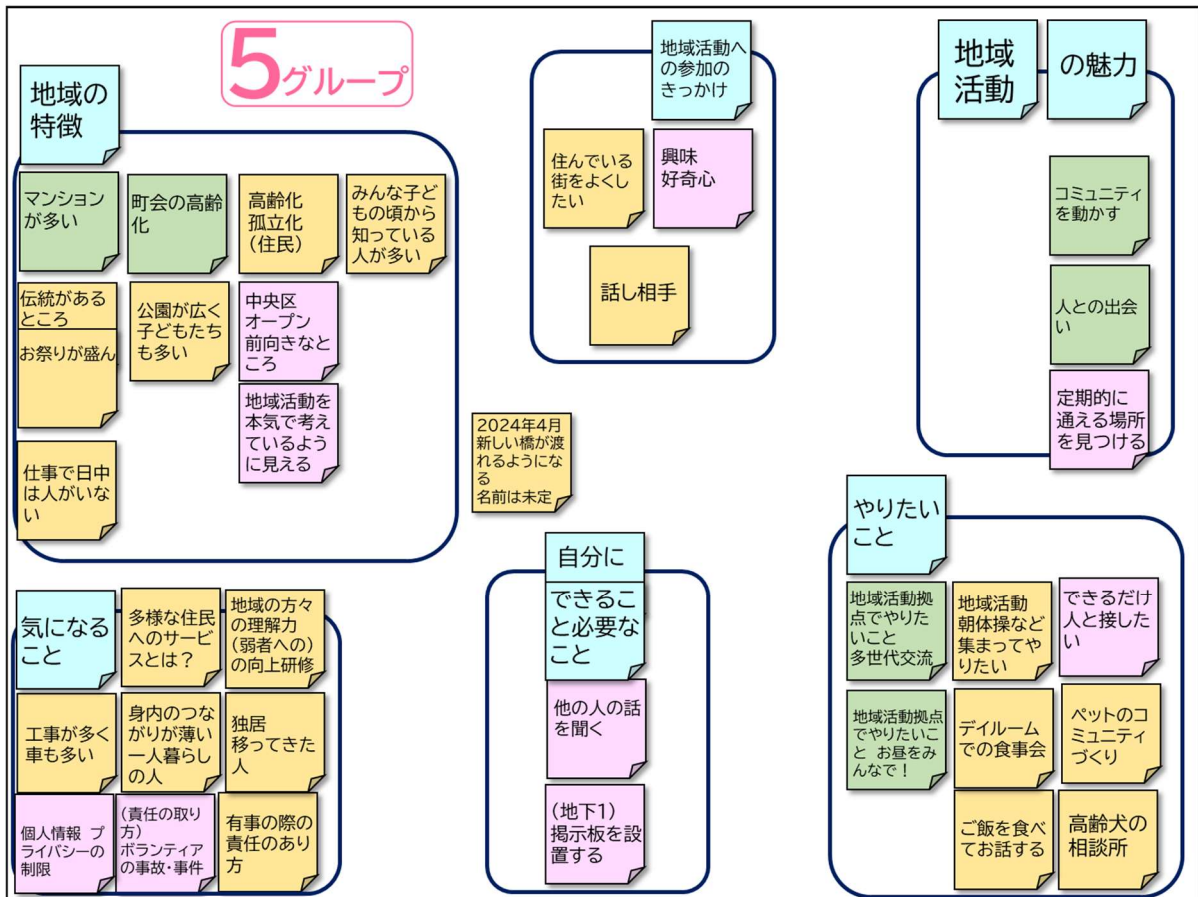
- ・ 自分の地域を良くしたいという思いが強かった。
- ・ 生まれも育ちも中央区という方だけでなく、後から嫁いできた方、在勤者など、様々な立場の方が好きになる地域であり、魅力で溢れている。

### ●地域でやりたいこと・自分にできること

- ・ 人と話がしたい。対象や年齢を制限しない場が必要なので、増えることが理想だし、自分たちでも作れると良い。

### ●地域活動の魅力

- ・ 地域活動の魅力は、コミュニティを動かすこと。これからも積極的にコミュニティを動かしていきたい。



## 【講師講評】

### ① 地域から孤立している方のアプローチ

地域には孤立しがちな方がいる。中央区のような都会だと、マンションの中にもそうした方がいるだろう。本人が自ら近所付き合いをしたり、SOS を発信することは難しく、我々がいかに気づき、関係を作っていくのかを考える必要がある。

### ② 増加するマンションへの対応

中央区は9割の方が集合住宅で生活している。比較的新しいマンションでも SNS を活用してつながるマンションもあれば、無縁社会状態のマンションもある。つながりのあるマンションコミュニティを目指し、いかにして働きかけるのか考えなければならない。

### ③ テーマ別のつながりを増やす

ペットなど、地縁ではなくテーマ別でつながるグループがあってもよいだろう。ペットを飼っている方々が集まり災害発生時の事を話す場を作るなど、様々なテーマで集まれる場が増えると良い。

### ④ “ふるさと”と感じてもらえる地域を目指す

子どもたちに、中央区が“ふるさと”だと感じてもらえる地域を、大人がつくっていく。どのような中央区であれば“ふるさと”だと感じてもらえるのか、ぜひこうした場で継続的に話し合っ

## 9 資料編

### ●プログラム


令和5年度  
プログラム

## 地域福祉ワークショップ

### 「地域コミュニティのこれからと地域活動について」

地域福祉をご存じですか？

「福祉」と言われると、高齢者や障害者など対象ごとの福祉を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、地域にはさまざまな立場の方、課題を抱えながら生活している方がいます。誰もが自分らしく生活できるよう、お互いに助け合い支えあうことが「地域福祉」であり、地域生活に欠かすことができない考え方と言えます。



今回は「地域コミュニティのこれからと地域活動について」をテーマに、中央区の地域福祉について話し合いたいと思います。

<目次>

- タイムスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 地域福祉ワークショップの目的・・・・・・・・・・ 2
- グループワークの進め方・・・・・・・・・・・・・・ 3
- おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

### タイムスケジュール

1. 開会・あいさつ (2分)	開会にあたって事務局からごあいさついたします。
2. オリエンテーション (3分)	●プログラム説明 ●地域福祉ワークショップの目的について
3. 講演 (30分)	「中央区の地域福祉を考える」 ●講師：駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏
4. 報告 (10分)	「区内の地域活動拠点について」 ●報告：中央区社会福祉協議会・事務局 職員
5. グループワーク (70分)	「地域活動のあり方と地域活動拠点の利活用」をテーマに、グループで話し合いを行います。 ①説明 (5分) ②話し合い (40分) ③発表 (15分) ④総括 (10分) ●ファシリテーター：駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏 ●サポーター：中央区社会福祉協議会 職員 ①テーマに沿って話し合います。 ②グループで話し合った結果を発表します。 ③ファシリテーターからコメント、アドバイスをいただきます。
6. おわりに (5分)	事務局からごあいさついたします。
7. 閉会	地域福祉ワークショップは終了です。

ワークショップは2時間程度を予定しておりますが、進行状況により時間が前後する場合がございますのでご了承ください。



※本日のワークショップはオンラインです。

- 1 -

## 地域福祉ワークショップの目的

区では、令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健福祉計画2020」を策定しました。また、令和3年3月には、中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会が連携して地域共生社会の実現を目指すこととしています。

「みんなが支えあい」という基本理念があるように、地域共生社会の実現のためには、行政による取組はもちろんのこと、区民の皆さまが主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりが重要です。

地域福祉ワークショップは、区民の皆さまの自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合い、横のつながりを深め、支えあいの地域づくりを推進することを目的に開催しています。

## ～ 皆さまへのお願い ～

- グループワークは決められた結論に導くものではありません。自由なご意見を出してください。
- 出された意見は批判せず、楽しい雰囲気活発な意見交換ができるよう、ご協力をお願いします。
- 限られた時間内での話し合いとなります。お一人で話を独占したり、一言も話さなかったりということがないように配慮ください。
- 高齢者、障害者、子ども、外国人、生活困難など、地域にはさまざまな困りごとを抱えた方がいることを念頭に置きながら、できるだけ包括的に意見を出し合ってください。
- サポーター役として、中央区社会福祉協議会(※)もしくは区職員がグループワークに参加します。進行に行き詰まったときや地域福祉の制度に関することなど、わからないことがありましたら遠慮なく質問してください。

※社会福祉協議会は、「地域福祉」を推進することを目的に設立された社会福祉法人で、地域の皆さまと連携し、力を合わせて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、各種事業を実施しています。

## グループワークの進め方

- 「自己紹介」をしましょう。
  - ◆A4用紙に、「所属・団体（記入例：町会・自治会、民生委員、ボランティア、地域住民など）、氏名、趣味・特技」を記入します。
  - ◆記入した用紙を使って1人1分で自己紹介をしてください。
  - ◆自己紹介のあとは、4つ折りにして机上用の名札として使います。
- 「司会」役と「発表」役を決めましょう。
  - ◆「司会」役の方は、メンバーのアイデアや意見を分類・整理します。
  - ◆「発表」役の方は、グループワーク終了後に意見交換の内容について簡単に発表していただきます。
- 川上先生の講義について。
  - ◆先生の講義はいかがでしたか。
  - ◆地域活動の燃料は「共感原理」です。地域のニーズ（困りごと/課題）を知り、そのニーズに共感し、自分たちに何ができるのか話し合うことが、新たな活動への一歩につながります。
- 本話し合う「テーマ」を確認しましょう。
  - ◆本話し合うテーマは「地域活動のあり方と地域活動拠点の利活用」です。この後の個人ワークや意見交換に向けて、下記の図を参考にヒントとなる視点を確認します。

地域活動・地域活動拠点のあり方について～思いを共有しよう～	
地域の特徴	・地域の特徴、好きなところ ・地域で活動する気にならなければいけないけど、方法がわからない
気になっていること	・地域の心配事、気になっていること
地域活動の魅力	・地域活動の魅力、参加した（したいと思った）きっかけ ・地域活動の心配事、気になっていること
気になっていること	・地域活動の心配事、気になっていること
地域活動拠点でやりたいこと	・こういう活動があると良いのでは？活用のアイデア ・どうすれば地域活動拠点を周知できるか
私ができること	・アイデアを実現するために私（私たち）ができること
必要なもの	・アイデアの実現に必要な仕組み（ヒト・モノ・カネ？）

## ●まずは「個人ワーク」を行います。

- ◆P.3のトピックスを参考に、テーマについて各自自分の意見や思いを付箋に書き出します。(3～5分)
- ◆1枚の付箋に1つの意見を記入してください。文章は短くて大丈夫です◎
- ◆付箋は何枚書いていただいても構いません。
- ◆グループ内の他のメンバーと同じ意見でも付箋に書いてください。内容が重複しているもの、付箋の枚数が多いものほど重要度が高いと考えられます。

## ●グループで話し合いをします。

- ◆書いた付箋を読み上げてグループで共有し、横造紙に貼り付けます。
- ◆似たような意見は並べて貼ったり、線で囲んだりして分類すると、わかりやすく整理ができます。
- ◆横造紙は自由に書き込んでいただいて構いません。各グループ1枚ずつお配りしています。2枚以上使用したい場合は職員にお声がけください。

<横造紙作成例>

地域活動のあり方と地域活動拠点の利活用 [1グループ]

[2グループ]

まずは挑戦してみよう！

自分たちで地域をつくる

イラストを描いていただいても構いません

## ●話し合いの結果を全体で共有します。

- ◆各グループの発表役が、作成した横造紙を参考に意見交換の内容を簡単に発表します。大切だと思ったこと、特に多く出ていた意見を中心に報告してください。(1グループ2分程度でお願いします)
- ◆同じテーマでも、話し合いの結果はグループで異なります。他のグループがどのような話し合いを行い、何が得られたのか話を聞くことで、さらに本日の学びを深めることができます。

## おわりに

長時間にわたり話し合いをしていただきましてありがとうございました。本日の意見交換の要旨やアイデアは、後日報告書にて皆さまにお送りするほか、「地域カルテ」更新時の参考資料とさせていただきます。区と中央区社会福祉協議会では、引き続き、支えあいのしくみづくりに向けた取組を進めてまいりますので、今後ともご理解、ご協力くださいますようお願い申し上げます。お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。

～最後に、お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。～

MEMO

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



●ワークショップの様子



講演「地域コミュニティのこれからと地域活動について」



講演(全体の様子)



グループワークの様子(1グループ)



グループワークの様子(2グループ)



グループワークの様子(3グループ)

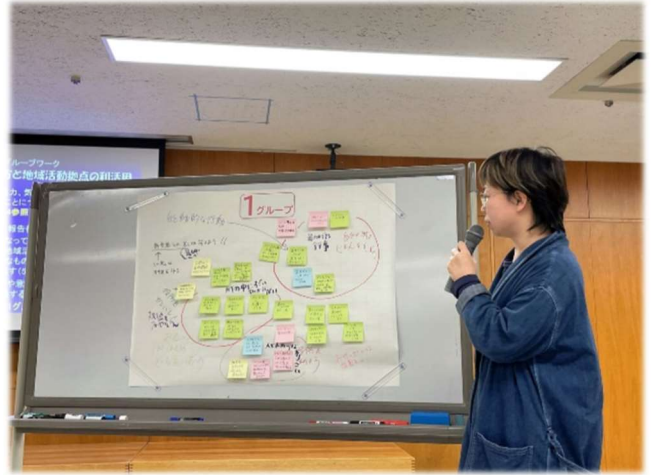


グループワークの様子(4グループ)





グループワークの様子(5グループ)



発表(1グループ)



発表(2グループ)



発表(3グループ)



発表(4グループ)



発表(5グループ)

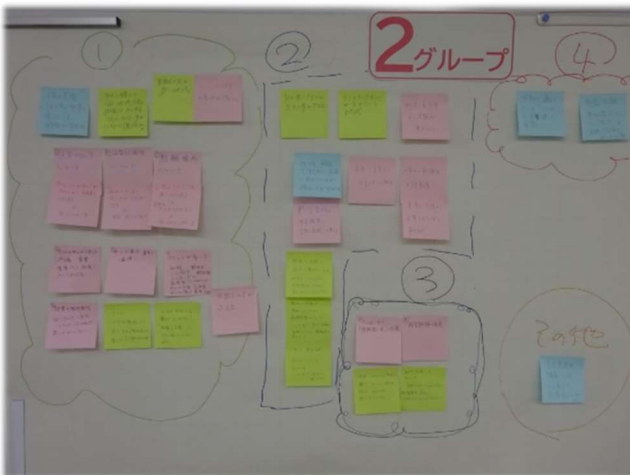




講師講評



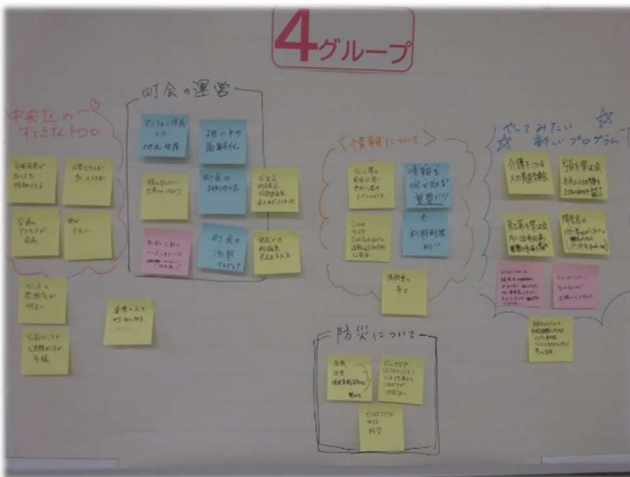
模造紙(1グループ)



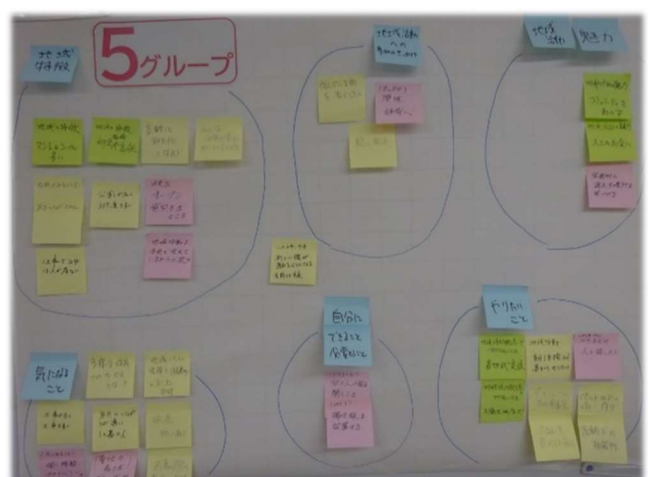
模造紙(2グループ)



模造紙(3グループ)



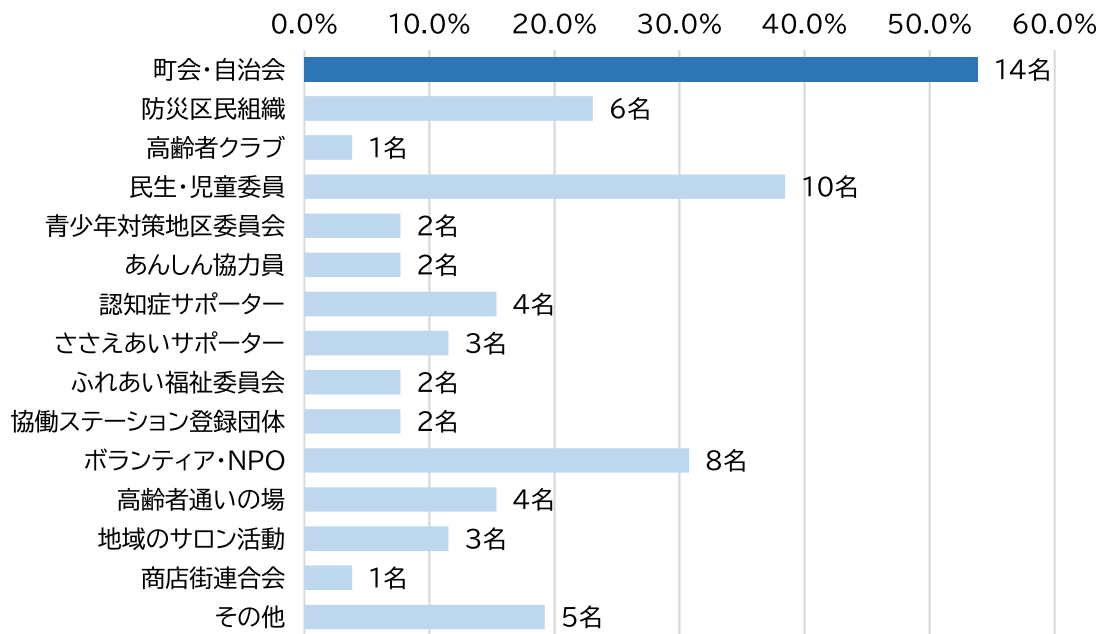
模造紙(4グループ)



模造紙(5グループ)

●アンケート結果(回答者数:26名)

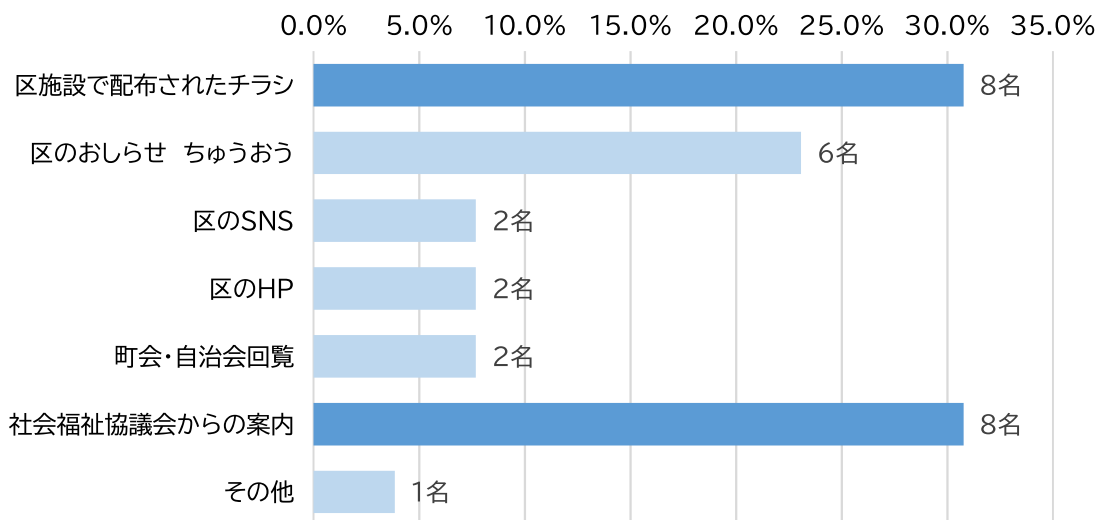
問1 どのような地域活動をしていますか(あてはまるものすべてに○)



【その他の回答】

はまる一むの活動に参加、区災害時医療救護活動従事スタッフ薬剤師、区議会議員

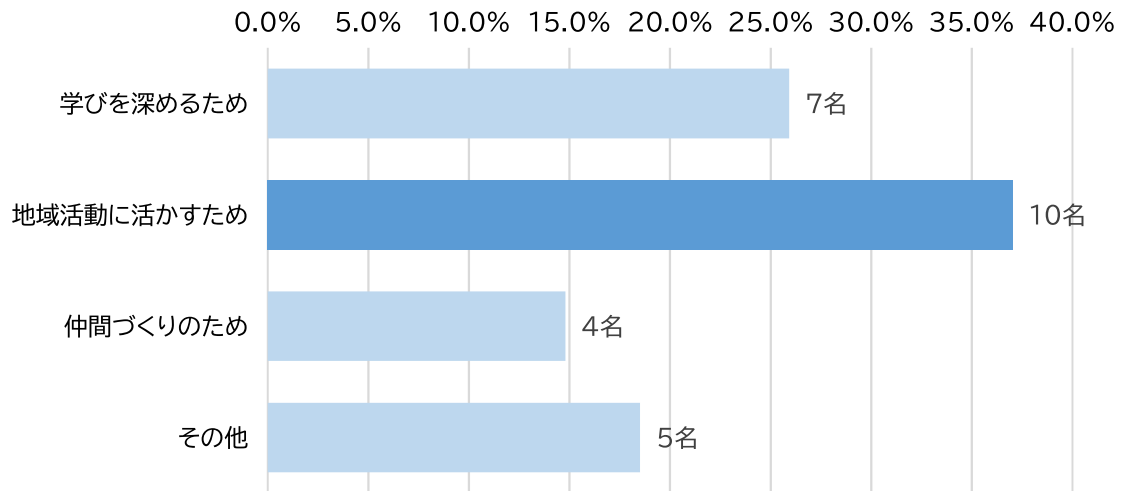
問2 今回のワークショップを何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)



【その他の回答】

参加者から誘われた

問3 今回のワークショップに参加した理由を教えてください。



【回答の詳細】

○学びを深めるため

- ・ 講師の講義を聴きたかった。
- ・ 地域の課題を共に考えたかった。
- ・ 福祉と防災を考えたかった。
- ・ 中央区の事を知るために参加しました。
- ・ 地域の問題点を知りたい。
- ・ とにかく勉強。
- ・ 地域コミュニティ(中央区)について興味があったため。

○地域活動に活かすため

- ・ サロン活動をしたい。(食事含む)
- ・ 町会活動に活用したかったから。
- ・ 町会に入ったことで、地域の活動に興味を持ったため。
- ・ 地域活動への興味。
- ・ 中央区役所の地下1階に開設されるツキチカで、紅茶を楽しむ会(毎月1回違う種類の紅茶を楽しむ会)を開催してほしいと伝えるため。
- ・ 地域からボランティアがはじまる！！ので。
- ・ 中央区にスマホ支援のグループを立ち上げたいと思い、そのきっかけになる情報を収集するため。
- ・ 町会活動への中心となっている方が非住民、高齢者のため、町会員の皆さんへの発信ができていない。解決への糸口になるようなアイデアや成功事例などをご教示いただきたく参加しました。
- ・ 現実問題として地域コミュニティを持続可能な形で活かしていくためにどうすれば良いかのヒントを得るため。
- ・ 障害者の居場所づくりをしたい。

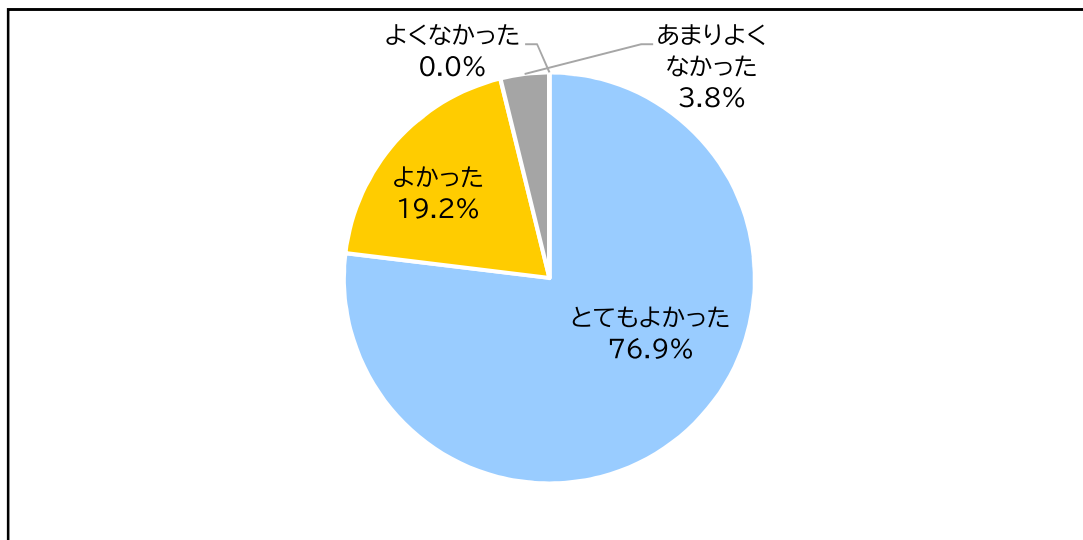
○地域で共に活動する仲間づくりのため

- 地域の新しい人たちの出会いを求めて。
- 中央区住民同士もっともっと楽しく仲良くなれるように。
- 子ども、大人、全て仲間となれるように…。
- 色々な立場の方との話ができるので。有意義な会合でした。

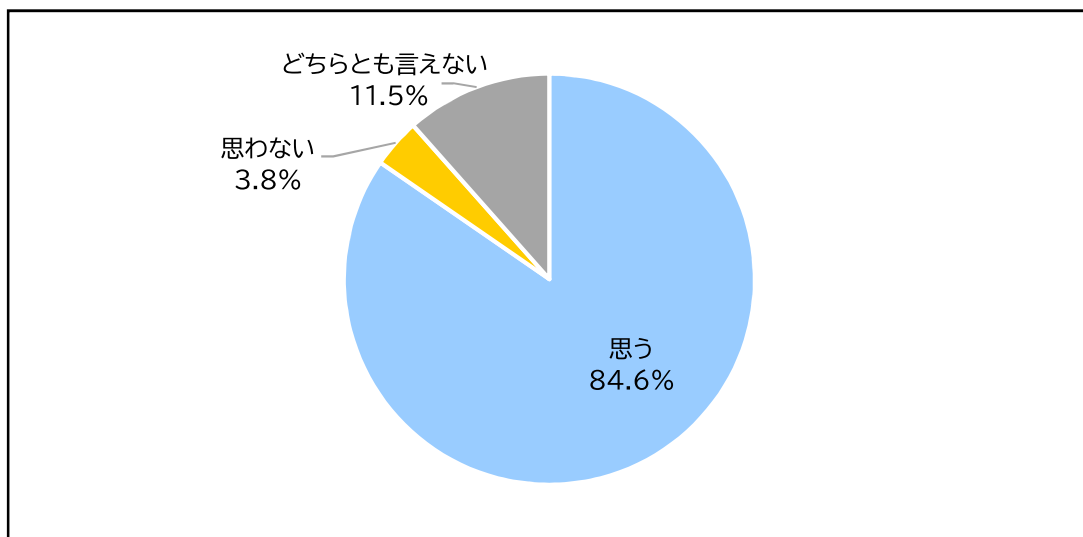
○その他

- 他の人の意見が聞きたかった。
- 前回は参加したので、今回も来ました。
- 中央区の町にお世話になったので、いつか私も役に立つ日が来るように。
- 断る理由を探せなかった。
- 町会役員、民生委員として。

問4 今回のワークショップに参加していかがでしたか。(1 つに○)



問5 今回のワークショップは、今後の地域活動に活かせると思いますか。(1 つに○)



問6 問5の回答についてお伺いします。その回答理由についてお聞かせください。

○多様な意見を聞くことができた

- 防災訓練が近々あるので少しでも町会の人々と考えを共有したい！
- 様々な意見を聞いた。
- 参加メンバーが素晴らしかった。
- ワークショップで地元を知ることが大切！
- みんなが考えていることは同じだと思った。
- グループでの活発な意見交換では、自分が知らなかった、気づかなかった視点を得ることができ、多様な世代からの意見はとても大切だと感じた。
- 共感！を増やしたい…と思っている方々ばかりだと思う。医療ボランティアの方は実際に区在住者ではない方が多く、災害時のことも絡めてコミュニティ活動において、こうした会があると伝えて行けたら良いと思う。
- 普段から地域に貢献されている方々と同じグループなので、話を伺ってとても励みになりました。町会では一人で頑張っている感じなので、ポジティブ思考のコミュニケーション力のある皆さんと一緒できて良い時間となりました。
- グループ内で様々な立場で活動されている方の話を伺えたので。
- この中の話をみんなが他の住人に話せば広がりますね！
- 行政による制度政策も良いですが、実際に住民もしくは関わりのある人々の意見として取り入れることで、反映につながると思います。
- みんなの意見からシンプルに問題点が浮かび上がった。
- 地域のことを本気で考えている方々が多く集まっているから。
- 多くの人の考えを共有することができた。

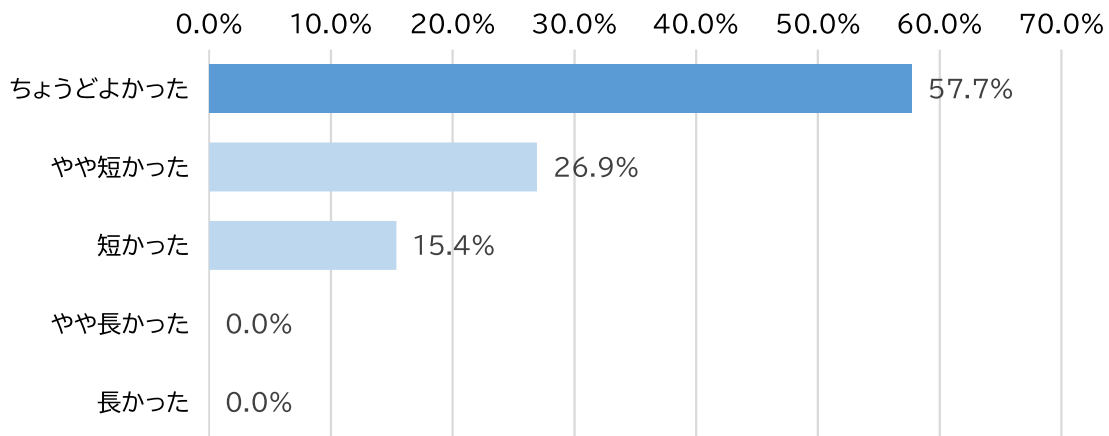
○様々な課題を知ることができた

- 実現につなげていく課題があると思う。
- いずれも地域、町会、情報、問題点があることを知った。

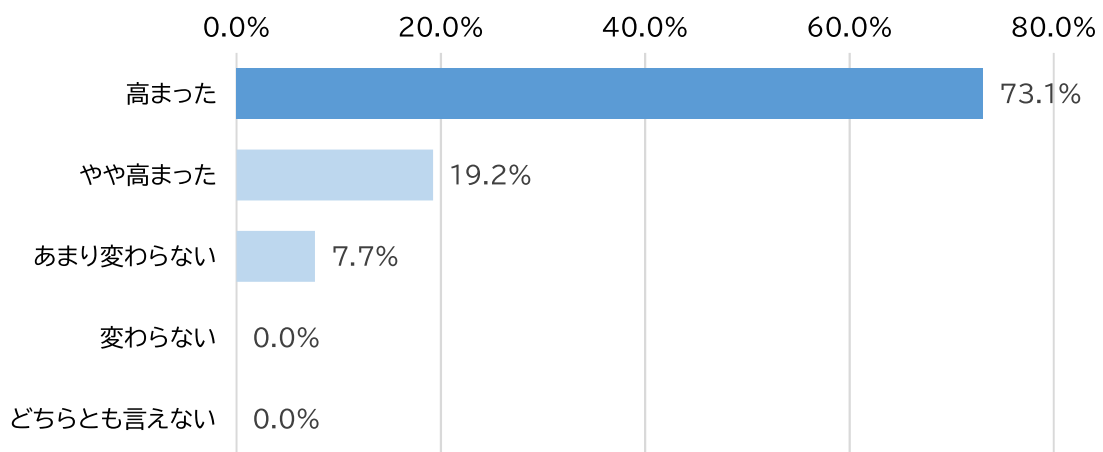
○その他

- 求めていたものと方向性が違っていた。
- 色々な人がいるのでどう転がるか。

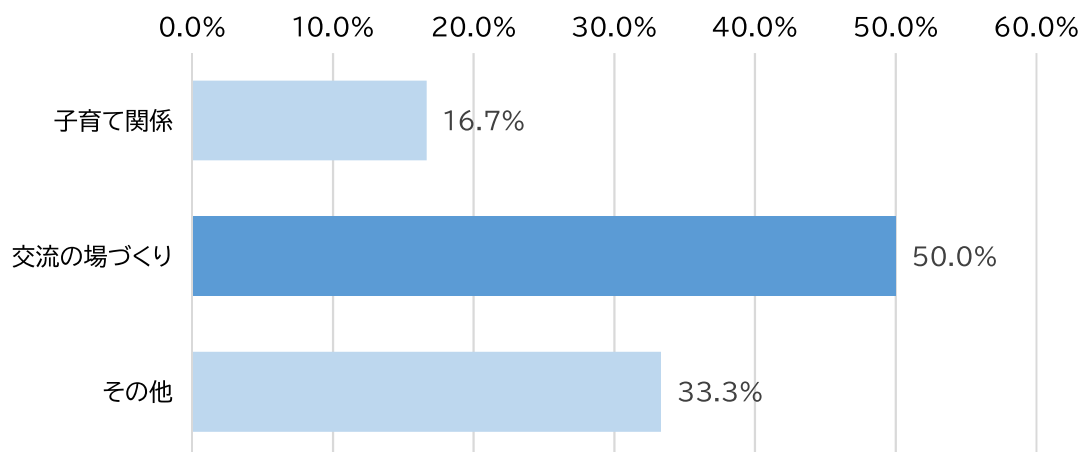
問7 ワークショップの話し合いの時間(長さ)はいかがでしたか。(1つに○)。



問8 ワークショップに参加して地域福祉に対する関心は高まりましたか。(1つに○)



問9 今後ワークショップで話したい内容、興味のあるテーマがありましたらお書きください。





## 【回答の詳細】

### ○子ども関係

- 子育て支援について。
- 子どもの意見表明。

### ○地域活動に活かすため

- 定期的集える場、無縁社会の防止について。
- 新しい住民とのコミュニケーション方法(定期的に参加したい)。
- 地域によって話したいテーマは異なると思う。晴海の場合は、高層住宅での孤独防止、話し相手など。
- 通いの場などを開催できる場の作り方。
- より具体的なコミュニティの成功事例と要因について。
- 皆さんの活動を知りたいです。

### ○その他

- 町会の情報発信のやり方を考える。世代によって異なる情報発信の方法。
- 災害時に特化した地域福祉ワークショップ。
- 福祉専門職の皆さんと区民との接点を多く持つ内容。

問 10 本日のワークショップ全体を通じて、ご意見・ご感想がありましたらお書きください。

- 続けることの大切さ、「意識の高い人」の存在を知った。
- 同じグループに入った方は、みんな意識が高く大変勉強になりました。最後に講師がコメントされていた「ペットコミュニティ」が心に残りました。
- もっと他自治体(都市部、中山間地域)での成功事例について話を聞きたい。講師の資料が非常に役立った。
- とても勉強になり、参加してよかったです。ありがとうございました。
- 中央区、地元を良くしたい。中央区は便利なまちで良い。
- 中央区を「ふるさと」と言える子どもたちを育てたい、というのは同感です。
- 具体的に細かいテーマで集まるのもいいな、と思います。色々と同じようによくしたい！！と考えている方々がたくさんいらして良かったです。
- テーマをもっと明確にして話し合いたい。ワークショップをただ話す場だけではなく、結論(とまでは行かなくても“まとめ”)が出したい。
- 初参加でしたので、うまく考えをまとめきれませんでした。今回のワークショップを機に日頃から地域コミュニティについて考えるようにしたいと思いました。
- 人々の集まる場所作りに参画できるよう頑張ります。来年は一つでも活動報告ができるようにしたいです。
- 貴重な機会をありがとうございました。
- 楽しいグループに入れていただき、ありがとうございました。

- また参加を希望します。
- 地域について考えている方が多いと感じました。新たなコミュニティが、新しい方々も加わり盛り上がることを期待しています。個別避難計画の作成の進みますように。
- 自己紹介をもっとくだいて行えると良い。
- 楽しかったです。町会の方々の年齢が高く、古い考えが残っていて困難なことがある。町会費の用途が不透明。マンション居住者の顔が見えない。ひきこもりの方がどのくらいいるのかわからない。

## 9 さいごに

ワークショップで出されたご意見やアイデアは、地域カルテ更新や地域活動拠点の活用などに向けた参考資料として活用する。